

東洋海軍出入港船舶、水路嚮導守護任務

(三) 敵潛攻撃手回救五二戰果

十二月	八回擊沈確實	一隻
一月	二回擊沈確實	四隻
二月	六回擊沈確實	一隻
三月	七回擊沈確實	一隻
四月	五回擊沈確實	二隻
五月	八回擊沈確實	一隻

所屬長官
所見



(終)

秘人

大東亞戰爭定期功績概見表

五五號一三四〇

八月八日

一九四〇年二月一日

獲島教團長海軍大尉

木山 逸男

記

事

區
教
分
日
功
績

十月二十三日

期
間

作戦行動戦争関係業務等
一、南支那方面物資人員輸送直達
二、対南洋方面要務
三、遺難船舶救助

獲島教團長海軍大尉
木山 逸男
一九四〇年二月一日

所屬長官(司令官)
所見

所見

横濱商船隊司令官 石川



19.10.30

秘人

十月二十五日

横警隊機密第 九三號

須	横	區	功績	期間	作戦行動戦争関係業務等	記
令	司		目			
	等					
四 俘虜受領警戒送收容任務ノ計	三 所屬防空砲臺ノ特設見張所ニ對スル補給業務ノ計畫指導	三 對空海面見張警戒攻撃並ニ索敵及指揮統率	一 陸上警備、軍港警衛ノ計畫指導	大海幕機密第六〇八號及機密横須賀鎮守府命令作第一四一、三〇三、三三七、三六四、三九八號ニ依リ横須賀鎮守府陸上防備部隊トシテ左記主要任務ニ從事	各配置ニ於ケル任務ヲ完全ニ遂行シ得タリ	

大東亞戰爭定期功績概見表

自昭和十八年十二月至同十九年五月三十一日

横須賀海軍警備隊司令官海軍少將 江 戸 兵

19.10.30

海軍



海			賀		
工補運	砲特機防防	應防衛警	部		
作機輸	設銃空空	急火兵衛			
隊隊隊	術見砲砲	隊毒隊隊			
	張所臺臺所				
三			級		
日一月二十年八十和昭自					
日一十三月五年九十同至					
三	二	一	七	六	五
諸營造物ノ戰備促進作業	戒應急諸作業並ニ對空海面見張警	對空海面見張警戒攻擊並ニ索敵	陸上警備軍港警衛並ニ治安ノ維持	應急諸作業並ニ對空見張	陸上警備軍港警衛並ニ治安ノ維持
			極メテ繁激ナル戰爭諸記錄ノ調製作戰指導ノ機務ニ從事	派遣	武裝商船警戒隊ノ教育指導並ニ
				防空氣球隊ノ教育指導並ニ現地	派遣

海軍

警		軍	
武裝商船警戒隊		主計科	醫務科
在隊員	派遣員	下	以
等以下二級	等以下四級		
自昭和十八年十二月一日			
至十九年二月二十九日			
一般武裝商船ニ乗組警戒保安並ニ敵潜水艦飛行機攻撃擊破	戒隊員ノ教育派遣業務	一、極メテ繁激ナル戰時諸給與並ニ 二、諸經理業務 三、防空砲臺、特設見張所ニ對スル補給	一、極メテ繁激ナル戰時防疫並ニ診療 二、防空砲臺、特設見張所ニ對スル補給

海軍

<p>隊 講習員 特技兵 內火術自 下以九級等</p>	<p>備 球防 隊空 氣 下以五級等</p>
<p>日一月二十年八十和昭自 日一十三月五年九十同至</p>	<p>日一月四年九十和昭自 日一十三月五年同至</p>
<p>從事 講習員被教育者トシテ教育訓練ニ 本隊任務ニ協力セル外戰時特修兵</p>	<p>法ヲ教育指導ノ爲器材ノ整備 要點ノ現地員ニ對シ防空氣球ノ用 南西方面、南東方面、北東方面各</p>

海軍

所屬長官
所見

橫須賀鎮守府司令長官 塚原二四



海軍

秘人

吳海軍警備隊第一四号，五九

大東亞戰爭定期功績概見表
自昭和十八年十一月一日起至十九年五月三十一日止

吳海軍警備隊司令官 海軍少將 板垣 盛

141

區分	項目	功績等級	期間	功績
吳海軍	一	三	自十八年十一月一日起至十九年五月三十一日止	一、吳海軍警備隊司令官官海軍少將 二、所屬長官 三、新兵
警備隊	般	九	自十八年十一月一日起至十九年五月三十一日止	四、新兵 五、新兵
所屬長官	見			六、新兵

功績
19.9.2

(竹海)

軍功

佐世保海軍警備隊第一九號
一五七七

庶務主任

江口

七月二十

軍警備隊

大東亞戦争功績概見表

(自昭和十八年七月一日至十九年五月三十一日)

佐世保海軍警備隊司令官大田

區分/項目
功績等級
期
間

佐世保隊	三	自十八年七月一日至十九年五月三十一日	<p>一 對空防備ヲ嚴ス</p> <p>二 軍港陸上ニ於ケル戰時警衛ノ一部ヲ實シメスルト共ニ防火</p>	<p>一 高射指揮所</p> <p>二 艦之關係員ノ對空警戒ヲ嚴ニスルト共ニ此ノ間敵練射撃ヲ實施シ候ハ、急速向上ヲ計リ</p> <p>三 軍港警備隊ニ軍事上重要施設投資源等ヲ充テシテ對空防備ト相俟フ</p>
------	---	--------------------	------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

作戦勲功後因係業務等記

功績
19.9.17
10.7.21

19.7
19.

海軍

防毒及救護隊ヲ常ニ整備ス	軍陸陸上防備ノ完璧ヲ期シ得ルヲ
三長崎港ノ警戒ニ任シ防艦ノ完壁ヲ期ス	六外國向書信及渡航者ノ査檢ヲ行ヒ殊ニ外國人ノ動靜ニ對シテハ嚴重ナル監視ヲ行フ等概悉漏泄防止並ニ防艦ニ關シテ高
四海軍管理工場並ニ戒ニ任ス	四福岡及南ノ崎海軍管理工場ニ並ニ戒隊ヲ派遣シ之ヲ警護ニ努ム
五對空防備機向ノ設 置補修並ニ努ム	五防空砲台、電波受信機ノ新設及裝備改善ニ兵力

(編四時)

海軍

之強化ヲ計ル	六、停房ノ軍戒ニ係ル	七、佐領地区、部外防室 指染ヲ行フ	八、普通種化所練習員
7、使用ノ積極的ニ整備施 化ヲ計リ以テ任務達成上高 全ク期シテ 六、長崎香焼島、同ニ要道取 所、相南及相富ニ於テ使 役停房ノ軍戒ニ係ル下 重要ナル進駐業務其、他ノ 作業能力増進ニ事與セ 所大ナシ	七、部外防室ニ関シ特ニ注意シ	用ニ通印セテ指染ニ係リ 氏防室ノ強化ニ努メテ	八、跡部下防室概用ノ名達表

(編四期)

海軍

<p>對空(原形)特務及 特別自動車操縦術 、講習法ニ補充号、取 育ヲ行フ</p>	<p>備上件之加要員ノ養成 ニ望志ノ向也、作健虎 下要員ノ養成ニ努力既 ニ數回、修業者、年一保 ニ配員セラル</p>
<p>九各種防空隊ノ急進 練成整備士任人</p>	<p>又第二回特別自動車操縦 員講習法ニ補充号、教育 ニ任シ、戰時下要員ノ急進 練成ニ努力ス</p>
<p>九當隊本務ノ傍ラ、戰術學 進化ニ伴フ、各種防空隊ノ 急進練成整備士任人 防空隊進出ニ參與セシ所</p>	

(編四時)

海軍

所
見
下

大
す

心以平々本派任事の重要
 性一徹之全カヲ集メテ諸地
 段ノ基体充化ニ盡力シ無
 防修ニ致事ノストテ軍費足
 際進事所ノ要術ニ依リ却外
 本能固守ノ持重ニ務事也
 善克ヲ善制ニ志諸段ノ全
 勢ヲ遂行シ強者志成ノ積
 ヲ興テナク

軍機要

147

七月十九日

舞鎮機密第...

舞鎮機密第...

進... 舞鎮機密第...

區分 功績等級 期

間 作戰行動 戰爭關係 業務

舞鎮海軍警備隊司令官 海軍少將 花田 行武

自昭和十八年五月三十一日
至昭和十九年五月三十一日

19.6.24 接受

舞鎮海軍警備隊司令部
等級 三

一、戰時訓練計畫及舞鎮鎮守府司令部...

(1) 警備地任地或陸上防護警備業務之從事

(2) 防犯地任地或防護警備業務之從事

(3) 舞鎮海軍警備隊司令部業務之從事

(4) 舞鎮海軍警備隊司令部業務之從事

(5) 舞鎮海軍警備隊司令部業務之從事

二、普通訓練計畫(河川高射砲班隊)及陸上防護...

三、砲術訓練班隊訓練地教育業務之從事

三、砲術訓練班隊訓練地教育業務之從事

三、砲術訓練班隊訓練地教育業務之從事

四、內火射(自動砲)班隊訓練地教育業務之從事

五、渡科科予備隊訓練地教育業務之從事(自三月三十一日
至六月三十一日)

六、補充兵團隊員教育業務之從事

七、防空砲台(中山嶺山)教育業務之從事

八、防空砲台(北嶺山)教育業務之從事

九、防空砲台(中山嶺山)教育業務之從事

十、防空砲台(北嶺山)教育業務之從事

<p>附屬防空砲臺</p>	<p>博奕砲臺</p>	<p>愛者砲臺</p>	<p>中山砲臺</p>	<p>念勝砲臺</p>	<p>空山砲臺</p>	<p>五老砲臺</p>	<p>附屬防空砲臺</p>
							<p>等級 三</p>
							<p>自昭和十五年五月 至昭和十九年五月</p>
<p>八、前線進出部隊(五三三、五三三、五三三、五三三)船前所定隊 二、并出出發準備業務(從事)</p>	<p>九、戰時關係品備品受入整備業務(從事)</p>	<p>十、補給業務及功績調查業務(從事)</p>	<p>十一、補給業務及功績調查業務(從事)</p>	<p>十二、補給業務及功績調查業務(從事)</p>	<p>十三、補給業務及功績調查業務(從事)</p>	<p>十四、補給業務及功績調查業務(從事)</p>	<p>十五、補給業務及功績調查業務(從事)</p>
<p>十六、第一回敵味射擊施行(中山砲臺(徐))</p>	<p>十七、中山砲臺(徐)</p>	<p>十八、中山砲臺(徐)</p>	<p>十九、中山砲臺(徐)</p>	<p>二十、中山砲臺(徐)</p>	<p>二十一、中山砲臺(徐)</p>	<p>二十二、中山砲臺(徐)</p>	<p>二十三、中山砲臺(徐)</p>

附屬特設見張河	經 崎	越 前 岬	皆 月	彈 崎	冠 島	上 世 屋	和 田 山	附屬監視艇	盛 運 丸	幸 福 丸	赤 一 天 祐 丸	赤 一 天 祐 丸
			等級 三							等級 三		
<p>一、海防監視船地區海空海上監視通信哨戒業務に従事 二、戦時術力全副空軍駐人員異動一隊 術力低下極限、為配道訓練機會教育 三、民防監視船指導協力従事</p>												
<p>十五年度海防監視業務命令 今作第...号 二月五日所 海防監視部 艦長、增田下...</p>												

第一号東洋丸
平和丸
震光丸
大信丸

等級
四

十九年四月廿二日
三月廿六日附
所管之横濱改定
此後從所屬也

海軍大臣後

海軍總機密第七號ノ二三

大東亞戰爭定期功績概見表

目昭和十八年十二月一日
至昭和十九年五月三十一日

海上護衛總司令部 海軍大尉 及 川 古 志

區分 種別	功績等級	期 間	作戦行動戦争關係業務等	記
海 上 護 衛 總 司 令 部	等級三	自昭和十八年 十二月一日 至昭和十九年 五月三十一日	左記業務ニ從事ス (一)擔任航路ノ海上交通保護、對潛 作戦ノ計畫指導並ニ實施 (二)擔任海面並ニ擔任航路附近ニ於 ケル被害船舶ノ應急ニ關スル處 置ノ統制 (三)護衛艦艇及對潛兵器ノ製造修理 促進並ニ補給ニ關スル事項 (四)麾下艦船部隊ノ教育訓練 (五)船舶警戒隊員ノ派遣並ニ教育訓練	十二月二日海軍省 構内ニ將旗ヲ移揚 ス 本期間中ノ護衛船 船延隻數(噸) 四一〇一隻 (一六八七噸) 同被害隻數(噸) 一二六隻 (二九七八噸)

海 軍

19.

7

所 見	所 屬 長 官		
	海上護衛司令官 及 川古志郎(支川)	(内) 船乗員ノ教育指導 (外) 海上交通保護ニ關スル戰訓、統計調査	本期中戰果 潜水艦擊沈 三〇隻
		同 擊破 一七隻	

(終)

海軍



功績調查部長殿

第一卷

四號 一三五

大東亞戰爭定期功績概見表

自昭和十八年十二月一日
至昭和十九年五月五日

第海上護衛隊司令部第海上護衛隊司令官海軍中將 中島

海軍省
功績課
印

區分	項目	功績等級	期間	作戰行動戰役間係業務等	記
第一海上	護衛隊等級二	自昭和十八年 一月一日	團護衛作戰計畫	海上交通保護船	船團護衛回數三三一回 船船總數二一八隻
司令部		至昭和十九年 五月五日	全般的指導任務二 從事		被害船數六一隻 敵潛艦擊沈數八隻
所屬長官					
所見					(終)

海軍

151



152

第二海上護衛隊司令部	功績等級	期 間	作 戦 行 動 戦 争 關 係 業 務 等	記 事
	等級 三	自昭和十八年 十二月一日 至同十九年 七月十六日	<ul style="list-style-type: none"> 一 擔任航路ノ船團(船) (艦隊) 護衛及對潛作戰ノ指導ニ任ズ ニ 所在部隊ニ協力シ「トラツク」(自十八年十二月一日) 及「サイバ」(自十九年二月二十八日) 及「サイバ」(自七月十六日) ノ防衛ニ任ズ 三 艦艇、船舶ノ整備、補給指導並ニ實施 	<ul style="list-style-type: none"> 一 第四根據地隊司令官(若林中將、司令部所在地トラツク) 第二海上護衛隊司令官ヲ兼務 ニ 二月十九日司令官交代新司令官有馬少將 三 三月一日第五根據地隊司令官(辻村少將) 司令部所在地サイバ(第二海上護衛隊) 司令官兼務トナル

海軍機密第七號ノ三九

大東亞戦争時期ノ臨時ノ功績概見表

第二海上護衛隊司令官職務執行者海軍中將 岸

自昭和十八年十二月一日
至昭和十九年七月十六日



930

海 軍

昭和十九年九月 日

海上護衛參謀

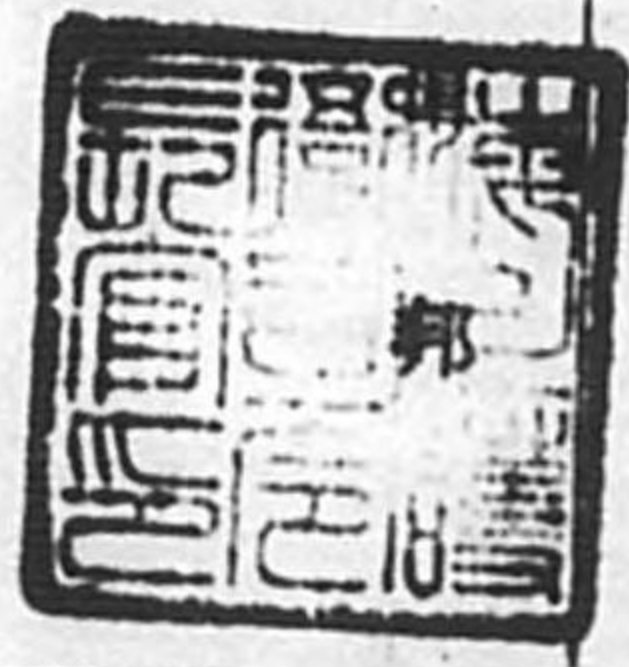
海軍功績調査部長



本件司令及以下調査者致死、
遂に之に付調査者二人、調査
終了

秋

見所官長顯所	
	戦死者 等級 一
	自昭和十九年 六月十五日 至同年 七月十六日
海上護衛司令長官 野村	四月下艦船部隊ノ教育訓練指導ニ 任ズ 六月十五日サイパン島ニ進攻セル 敵大部隊ヲ遂撃シ勇戦奮闘其ノ大 部ハ壯烈ナル玉碎ヲ遂ゲタリ
	四月五日横須賀鎮守 府司令長官ノ作戦指 揮下ニ入ル



海軍

(終)

秘人

十月二十五日進達

三海設機密第五號

九月二十五日

大東亞戰爭定期功績概見表

自昭和十九年五月二十日
至昭和十九年八月二十日

第三海上護衛隊司令官 海軍少將 中邑元司

區分

作戰行動戰爭關係業務等

記 事

司令部

東京灣西航路部隊トシテ船團護衛

一九、五、二〇

至一九五三

竝ニ哨戒及對潛掃蕩作戰ニ従事ス

横濱艦隊下東京灣西航路

所屬長官
所司令官
所見

横濱艦隊司令部

海軍



154

海軍

軍務部
入籍

155

係	世 等級三	位	功績	期 間	記 事
	自一八一三、一 至一九四九		一、当隊ハ佐鎮海面防備部隊トシテ左ノ業ニ敵潜、撃滅ニ邁進シ、 誘ニ從事ス。当司令部ハ之ヲ作戰、 計画該ニ指導ニ任ズ。		如ク敵潜ハ艦艇撃沈事
			以十二月十六日海護總司令部第一〇號ニ依リ、 機雷部隊ヲ編成シテ那東海、南東海、 域、対潜機雷礁、急速構成ニ任ズ。		寄與スルル大ナリト認ム
			四護衛部隊、航空部隊ヲシテ沖繩航路 船団、護衛該ニ対潜掃蕩哨戒ニ任ズ。		ニ麾下艦艇飛行機ハ左ノ

大東亞戦争定期功績概見表

自昭和十八年十月一日
至昭和十九年九月三十日

佐在保防備隊司令部
司令部、期向人、公

四海護衛隊第一号ノ六

海軍少将 新葉 亨 造



防	備	戰	隊
<p>以左、各部ヲシテ担任海面内通航船、直 (商)接護ヲ致シ海上防備警戒、対潜 掃蕩ニ任ズル外、集團演習、保護及 担任海面外部防主、指導ニ任ズ</p>	<p>北九州部隊(佐世保附近及九州北西海面) 南九州部隊(九州東方及北部南西諸島附近海面) 南西諸島部隊(中部及南部南西諸島附近海面)</p>	<p>(二) 船団(船舶) 対潜防衛力強化、爲佐 世保防備隊ヲシテ、伊萬里、川司、麻見島 ニ船団(船舶) 指導班ヲ編成セシメ之ガ 實地指導ニ任ズ</p>	<p>(ホ) 佐世保防備隊ヲシテ軍務機密第一九一五 三三番電ニ依ル敵掃蕩艇(海上護衛用)</p>
<p>、成果ヲ擧ゲ其功績 顯著ナリ</p>	<p>八月十一日那霸、三三八度 五。混ニ於テ敵潜艇 一隻ヲ撃破ス</p>	<p>四月空那霸派遣隊機ハ 二月至六日那霸、二五。度 五。混ニ於テ敵潜艇 一隻ヲ撃沈ス</p>	<p>以特設掃海艇團九、三月 二十日北緯二五度三十分 東至一三六度五一分ニ於テ</p>

<p>、整備及出撃諸準備迄ニ教育諸訓 練ヲ実施ス</p>	<p>敵潜水艦一隻ヲ撃沈ス</p>
<p>一、自一月至六月 至二月四日 期間南西諸島方面ニ於ケル敵 潜水艦ノ活動活況化ニ鑑ミ司令部ヲ一 時同方面ニ進出シ対潜水艦ノ迅速内滑 化ヲ企図ス</p>	
<p>三、自三月一日 期間右同 至四月六日</p>	
<p>四、三月十五日伊平屋島北端三一。度三八混ニ 敵潜水艦出現ニ際シテハ本職真鶴ヲ率テ 出撃、直接掃蕩隊ヲ指揮ス</p>	
<p>五、当隊ハ昭和十九年四月十日解隊トシ、第四 海上護衛隊編成セラレ佐世保防備戦隊 ノ任務ヲ継承ス</p>	

(艦隊誌)

海

軍

第	第四海上護衛隊、沖繩海軍航空隊、友鶴、真鶴、第十五號掃海艇、富津丸、第九號驅潛艇、第五十八號驅潛艇ヲ以テ	沖繩航路護衛ヲ計畫シ、因運航ニ因テ留意事項ヲ定メ護衛ヲ實施シタルハ、後
四	作戰指揮下ニ第四五三海軍航空隊、第九。一海軍航空隊、沖繩派遣隊、鎮海々軍航空隊、沖繩派遣隊及燕、編入ヲ得	シモ、ト認ム
海	テ第四海上護衛隊トシテ南西諸島海面防備部隊ト協同一併トシテ左ノ業務ニ従事ス	四月十日燕、曾津高崎、
上	當司令部ハ之ガ作戰計畫ニ指導ニ任ズ	三三度、二六度、地英ニ於テ敵潜水艦一隻ヲ撃沈ス
	沖海上護衛隊	四月二十七日沖空中改機及沖
	沖繩航路、一貫護衛	繩部隊艦艇協力沖永良部

自一九四一。至一九五三。

護	衛	隊	司	令	部
(一) 南西諸島等，台灣航路，護予協力 (二) 佐鎮担任警備區域，敵潛掃湯 (三) 未襲敵艦航空機，速報該擊破	(四) 特令三外戰部隊協力及補給運輸 (五) 航空部隊	(一) 取固護予 (二) 敵潛哨戒並擊滅	(三) 敵航空機，擊攘 (四) 航空基地防予		
マクニヤ崎ノ二六九度一九哩 地矣ニ於テ敵潛艦一隻ヲ擊沈ス	(一) 四月二十七日燕及大島防備隊 附屬海上護不用換取隊協力 曾津高崎ノ二六度七五哩 地矣ニ於テ敵潛艦一隻ヲ擊沈ス	(二) 五月三日真鶴ノ六九度九度 十三長運九協力與那國東 嶽七七度二〇哩，地矣ニ於テ 敵潛艦一隻ヲ擊沈ス			

(編 局 務)

正

正

海軍大臣殿

官所見	所屬長	部令司	團	船衛	護一第	區功績	等目級
		二		七	八		
		自一九五二 至一九五三	自一九五二 至一九五三	自一九四一 至一九四二	自一九四一 至一九四二	自一九四一 至一九四二	自一九四一 至一九四二
		壺岐三乘艦シ門司昭南間ト大三 船團部隊作戦行動指揮對 答掃掃萬並直接護衛	次期作戦出撃準備	右 同	夕風三乘艦シ東京灣、サイパン間 東松三號船團部隊作戦行動 指揮對答掃掃萬並直接護衛	作戦行動戰争關係業務等	功績概見表
		戰死	一九五三ヨリ一海護司令官ノ指 揮下ニナル	一九四一ヨリ海護總長官ノ指 揮下ニナル	一九四一ヨリ機長官ノ指揮下 ニナル	記	伊集院松治

大東亞戰
第一護衛



功績概見表
自昭和十九年四月八日
至同十九年五月三日

日進達



海軍

159

海軍大臣殿

二護船目機密第三號

月 日進達

概見表

自昭和十九年四月
至同日十九年五月三日

大東亞戰爭
一河第二護衛

部 海軍少將

清田 孝彦

區分項目

功績

期

戰爭關係業務等

記

一九四八ヨリ横領長官指揮
下ニナル

第二

護

自一九四二
至一九四五

次期作戰出撃準備

戰果 一隻撃沈
潜水艦一隻撃沈
潜水艦一隻撃沈
潜水艦一隻撃沈

護

三

自一九五三
至一九五五

朝日二乗艦シ東京灣ヲサバシ間
三五〇三乗艦部隊作戦行動
指揮對香檳島並直轄護衛

戰果 ナシ
被官 駆逐艦一隻沈没

衛

五

自一九五五
至一九五七

朝日二乗艦シサイパン東京灣間四五
王若園部隊作戦行動指揮
對香檳島並直轄護衛

戰果 ナシ
被官 駆逐艦一隻沈没

團

自一九五三
至一九五五

對香檳島並直轄護衛

戰果 ナシ
被官 駆逐艦一隻沈没

司

自一九五三
至一九五五

次期作戰出撃準備

戰果 ナシ
被官 駆逐艦一隻沈没

部

九

自一九五三
至一九五五

次期作戰出撃準備

戰果 ナシ
被官 駆逐艦一隻沈没

所屬長官
所見

海軍

軍務

三

護船司機密第...

大...

...

...

...

...

...

...

...

月 日 進達

昭和十九年五月三日

...

期 期

...

...

...

...

...

...

...

...

自一九四八

...

...

...

...

...

...

...

...

至一九五五

...

...

...

...

...

...

...

...

自一九五五

...

...

...

...

...

...

...

...

自一九五五

...

...

...

...

...

...

...

...

自一九五五

...

...

...

...

...

...

...

...

自一九五五

...

...

...

...

...

...

...

...

自一九五五

...

...

...

...

...

...

...

...

官所見

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

海 軍

大正十四年四月十二日

大東 功績概見表 自昭和十九年四月十二日 至昭和十九年五月三十一日

新船司令部海軍少將 梶岡 定道

功績 記 元四月一日海軍司令部 輝下八八

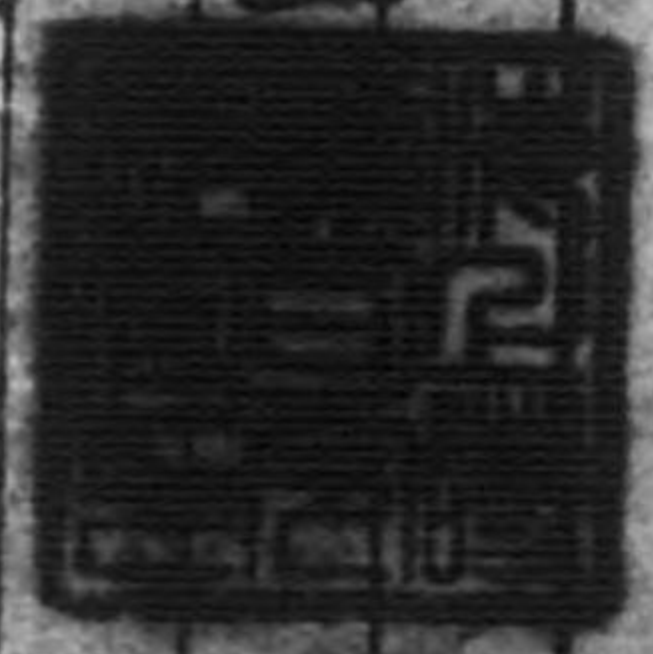
自四月十一日 出撃作戦準備 戦果 敵潜水艦沈没未確

自四月十二日 自鷹の巣艦六連ハルマラニ檢 被害 敵潜水艦沈没三隻

行動指揮並對潜掃蕩並 行動指揮並對潜掃蕩並

至五月三十一日 接護行

海上護衛司令長官 野村 直



軍艦 大 臣 段

七護船司機密第二號

月 日 進 達

一 大 東 亞 戰 争 之 概 見 表

第七護衛艦

海軍少將

松山光治

自昭和十九年四月八日
至同十九年五月三十一日

區 分 項 目

功 績 等 級

任 務 概 要 等

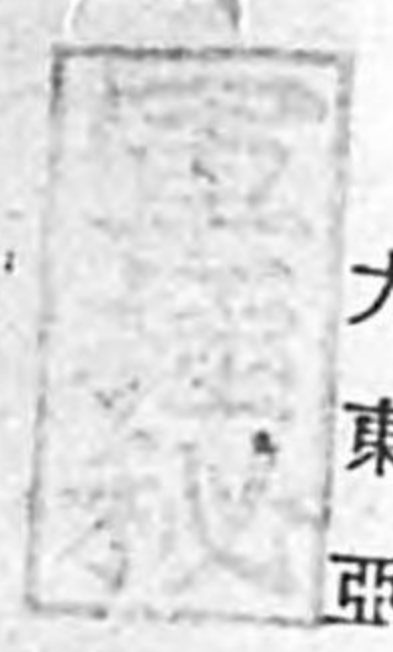
記 事

七	九	七	七	七	七	七	七
自一九四八 至一九四一四	自一九四一五 至一九四一四	自一九四一三 至一九四一三	自一九四一四 至一九四一四	自一九四五 至一九四五	自一九五二 至一九五二	自一九五三 至一九五三	自一九五三 至一九五三
次期作戰出擊準備	次期作戰出擊準備	次期作戰出擊準備	次期作戰出擊準備	次期作戰出擊準備	次期作戰出擊準備	次期作戰出擊準備	次期作戰出擊準備
一九四八ヨリ横鎮長官ノ指揮下ニハル	敵潜水艦一隻撃沈概ニ確カ	被害ナシ	被害ナシ	被害ナシ	被害ナシ	被害ナシ	被害ナシ



163

功績調査部



大東亞戦争定期功績概見表

自昭和十九年二月一日
至昭和十九年五月三十一日

海軍大臣官房
十九年八月二十二日

特設船舶警戒部長
海軍中將
鋤柄玉

記



事

功績等級	期間	事項
一等功績	自昭和十九年九月九日 至昭和十九年九月九日	海上護衛總司令部ニ附本年內令第二七五號ニ依リ屬シ左記主要任務ニ從船舶警戒部設置セラレ二月一日横須賀海軍警備隊ヨリ分離横須賀海軍警備隊内ニ於テ部務開始五月十日應舍並ニ兵舍ヲ横濱ニ移轉ス
二等功績	自昭和十九年九月九日 至昭和十九年九月九日	一 武装商船ニ警戒兵ヲ派遣シ其ノ防衛ニ任ゼシム 二 武装商船及在部警戒兵ノ教育訓練並ニ人兼船警部長ヲ免ゼラレ海軍中將鋤柄玉造船部部長ニ補セララル
三等功績	自昭和十九年九月九日 至昭和十九年九月九日	武装商船派遣延員數 三〇一一 武装商船搭載兵器ノ整備並ニ彈藥需品消費 五七二

報警機各
一八三・七
以下三件計
五

所 海上護衛司令長官 見

部 戒 警

員 隊 戒 警 船 商 裝 武 員 務 勤

四 級 等 六

日 一 月 二
日 十 三 五

耗品ノ補給
船舶警戒部ニ於ケル
對空自衛
戰時防疫並ニ診療業
務
戰時諸給與諸經理ノ
業務
一 武装商船警戒保安ニ
關スル業務

武装商船教育延隻數 二八二四
武装商船兵器補給延隻數 四二一
武装商船兵器搭載受領延隻數 一〇七一

敵潛撃破數 一九八
敵機交戰件數 四
敵機撃破機數 九

122

大東亞戰役（第五回）功績概見目次

昭和十九年十二月二十日

西洋全集十三行昇紙（花崎納）

綴順	廳	名	要
1	第一聯合通信隊		
2	第三		
3			
4	橫須賀防備戰隊		
5	吳		
6	佐世保		
7	橫須賀警備隊		
8	吳		
9	佐世保		
10	舞鶴		
11			
(沖繩根拠地隊有)			
綴順	廳	名	要
12	海上護衛總司令部		
13	第一海上護衛隊		
14	第二		
15	第三		
16	第四		
17	第一護衛船團		
18			
19	第三		
20	第四		
21	第五		
22	第六		

35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23
									特設船舶警備部		第八	第七
									元 一 設		衛船團	元 四 一 五 設
48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36

一九七〇・五〇・一

海軍

船警機密第一八號

昭和十九年十二月

日

訂正

船舶警戒部

表中

船警機密第一八號當部

(自昭和十九年五月三十一日)

定期功績概見

一 武装商船兵器搭載受領延復枚

一 敵機交戦件数

一 敵機撃墜機数

四八八

四九

六

一〇七一

九二

一三

訂正

(終)

二〇二二年

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 3146

11 September 1947

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Bound File, Kept by the Navy, "Outline of Meritorious Records in the Greater East ASIA War" - No. 5 1 Dec 1943-31 May 1944. Cover Reads, "Headquarters, No. 5 (Naval Air Materials Omitted) (SHIMEIBU, DAIGO, KOKU KANKEI NOZOKU).

Date: 1 Dec 1943-31 May 1944 Original (x) Copy ()
Language: Japanese

Has it been translated? Yes () No (x)
Has it been photostated? Yes () No (x)

15 July, 1944

LOCATION OF ORIGINAL: IPS Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: Japanese War Ministry through ATIS.

PERSONS IMPLICATED: ICHIOKA, Hisashi; (Rear Admiral, Commander of 8th Submarine Fleet); KANAI, Shigeo (Chief Legal Officer of the Military Tribunals of S.W. Fleet and 2nd South Expeditionary Fleet)

CRIMES OR PHASE TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Japanese Naval Actions - POW violations.

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

This document (ATIS Dec. 160869 a) records the actions of individual naval officers, naval units, or fleets during the period of 1 Dec 1943 to 31 May 1944 - such actions are recorded as basic information for rewards, decorations, and citations of merit.

The "meritorious actions" of KANAI, Shigeo and ICHIOKA, Hisashi are outlined below, particularly for evidentiary material on POW violations.

In the record of meritorious services rendered by KANAI, Shigeo, Chief Legal Officer of the military tribunals of the Southwest Fleet and the 2nd South Expeditionary Fleet, the trials in occupied areas are listed in which 11 persons, other than servicemen, civilian employees in the Navy, workmen and seamen, are charged of violating the punishment regulations of prisoners-of-war.

Doc. No. 3146 - Page - 2 - Summary Cont'd.

Among the meritorious actions of Rear Admiral ICHIOKA, Hisashi, Commander of the 8th Submarine Fleet, the following are recorded:

1. Using PENANG as his Submarine Fleet base, Commander ICHIOKA checked beforehand the enemy's plan of counter-attack by sea power against the Japanese occupied zone. Meanwhile, he succeeded in dispatching by submarine boat special intelligence agents into the territory of INDIA, thereby rendering valuable cooperation to the Army.

2. A part of Commander ICHIOKA'S submarine fleet was dispatched to EUROPE to establish connection with her ally GERMANY.

3. Commander ICHIOKA helped GERMAN submarine boats, which were sent round to INDIAN SEA, in JAPANESE-GERMAN joint operation. In the period 1 Dec 1943 - May 31, 1944, his submarine fleet scored the following results:

Sunk: 20 Merchant Vessels - 190,000 tons
8 Sailing Boats - 1,200 tons

Destroyed: 1 Merchant Vessel

Caught a British captain and nine members of the crew as prisoners.

Analyst: E.T. GARDEN

Doc. No. 3146
Page 2

C E R T I F I C A T E

W.D.C. No. _____

I.F.S. No. 3246

Statement of Source and Authenticity

I, L. KAWAI hereby certify that I am officially connected with the Japanese Government in the following capacity: Director of Personnel Division, Second Demobilization Bureau and that as such official I ~~had~~ ^{was} in custody of the document hereto attached consisting of 169 sheets, dated 15 July, 1944, and described as follows: Bound file entitled "Headquarters, No. 5 (Naval Air Materials Office), Outline of Meritorious Records in the Greater East Asia War, 1 December 1943 - 31 May, 1944".

I further certify that the attached record and document is an official document of the Japanese Government, and that it ~~is~~ ^{is} part of the official archives and files of the following named ministry or department (specifying also the file number or citation, if any, or any other official designation of the regular location of the document in the archives or files): Personnel Bureau, Navy Ministry, Japanese Government

Signed at Tokyo on this 14th day of October, 1947.

L. Kawai
Signature of Official
Director of
Personnel Division, P.D.B.
Official Capacity

Witness: I. Yokoyama

Statement of Official Procurement

I, J. H. Lambert, hereby certify that I am associated with the General Headquarters of the Supreme Commander for the Allied Powers, and that the above described document was obtained by me from the above signed official of the Japanese Government in the conduct of my official business.

Signed at Tokyo on this 14th day of Oct, 1947

J. H. Lambert
NAME
IPS Investigator
Official Capacity

Witness: Johnson + Treasurer

FILE COPY
46384
Page 1.

Top Secret Communication No. 18 from 8th Submarine Squadron Commander to the Ministry of the Navy dated 30 July 1944 (Excerpt from file entitled Headquarters No. 5, Naval Air Materials Office, Outline of Meritorious Records in the Greater East Asia War, 1 Dec 1943 - 31 May 1944)

To Minister of the Navy:

Reported on the 30th July, by Rear-Admiral ICHIOKA Hisashi, the Commander of the 8th Submarine Squadron; at the Headquarters of the 8th Submarine Squadron.

/The Seal of the Commander of the 8th Submarine Squadron/

/Personal Secret/

/ Naval Secret/

/ The 8th Submarine Squadron Secret No. 18/

/Received on Aug. 14 1944/

The Periodical Report on Outlined Meritorious Deeds of the Great Eastern Asia War (From Dec 1 1943 to May 31 1944)

Demarcation Headquarters of the 8th Submarine Squadron

Grades of Meritorious Service: 2nd Grade
Period: From Dec 1 1943 to May 31 1944

Operational Actions, Services related to War and others

Descriptions

(1) From the last month on, this squadron continued to stay at the base of PENANG as the Southwestern Area Submarine Squadron. With the submarines under my command, squadron prevented enemy's reinforcement for counter-attack from Indian Ocean and crushed its tactical attempt to attack vessels; cooperated with and supported the Army in preventing enemy's reinforcement from the sea towards INDIA-BURMA border; cooperated successfully in transporting spies and men on special missions who were stealing in to feel out enemy's situation in INDIA reconnoitered and ravaged enemy's transportation route from AUSTRALIA and the eastern coast of AFRICA to the ADEN Bay, Arabian Coast, INDIA and the Bay of BENGAL; greatly contributed to judgment of enemy's conditions in the western area by carrying out reconnaissance and patrol on all strategic points under joint operation with "HO" Reconnaissance Planes Group.

(1) The 14th Submarine Division was de-activated on Dec. 13th and Sub. "I" No. 27 and Sub. "I" No. 37 were attached to the Squadron.

(2) The Sub. "Ro" No. 112 (on Dec. 15) the Sub "Ro" No. 113 (on Dec. 31) and the Sub "Ro" No. 114 (on Feb 20) were newly added to the 30th Submarine Division as reinforcements. The Sub "Ro" No. 112 which had been operating in the ARAFURA Sea area north of Australia and the Sub "Ro" No. 113 and 114 which had been under the command of the Commander in Chief of the Convoy Escort were released on March 25th. The Sub "I", No. 166 and "I" No. 165 were attached to the Squadron. The Sub "I" No. 162 was transferred to the KURE Submarine Squadron, and others were transferred to the 51st Submarine Division upon being separated from this Squadron.

Operational Actions, Services related to
War and others

Descriptions

(2) A part of the submarines under my command (Sub "I" No. 8, Sub "I" No. 29, Sub "I" No. 52, and Sub "Ro" No. 501) were despatched to the Atlantic Ocean and European waters on special duty and engage in joint operation for a long period to keep on liaison between Japan and Germany.

(3) My advice and guidance were given for the maintenance and supply as well as for training of crews so that submarine operation could successfully be carried out to bring about brilliant war results.

(4) For the German submarines which had hastily been dispatched for Japanese-German joint submarine operations in Indian Ocean, sufficient cooperation was given in liaison as well as in such preparation as maintenance and supply, thus German submarines were enabled to show their efficiency in the Japanese-German joint operation advantageously, resulting in a great contribution to the success of the strategic plan for the destruction of transportation in the Indian Ocean Area. The material battle-results during this period are as follows:

Sunk: Merchant ships 20 (190,000 tons)
Sailing Vessels 8 (1,200 tons)
Damaged: One Merchant ship of large size.
Prisoners: 9 enemy crew, besides an English Captain.

(3) The Sub "I" No. 29 and "I" No. 528 sailed out from SINGAPORE on December 16th and April 23rd, respectively, and are now operating in the Atlantic Ocean and European waters on special duty shown in Imperial Headquarters Navy Section Instructions Nos. 273 & 322.

(4) The Sub "I" No. 10 was transferred to the 6th Fleet on Jan. 1st, and was attached to the advance force.

(5) The Sub "I" No. 8, having accomplished on Dec 20th the special duty shown in Imperial Headquarters Navy Section Instruction No. 205, returned from Europe; it left KURE on Feb. 21st and is now operating in this area.

(6) During this period:

1. The Sub "I" No. 34, on the way to PENANG on a special mission, had a conflict with the enemy on Nov. 13th in the MALACCA Strait, in which all the crew except 13 survivors were killed and the ship was withdrawn from this Squadron on Feb. 5th.

2. The Sub "Ro" No. 110 and the Sub "I" No. 27 sailed out from PENANG, on Feb. 2 and Feb. 4, respectively, and were engaged in strategic operation for destruction of communications in the BENGAL Bay and the Indian Ocean. During this period they fought the enemy and both the Sub "Ro" No. 110 (on Mar. 15) and the Sub "I" No. 27 (on May 15) are presumed to have been sunk, losing all their crew.

Page 127:- The Opinion of Chief (Commander) under whose command the Squadron is:

C E R T I F I C A T EStatement of Source and Authenticity

I, I. KAWAI hereby certify that I am officially connected with the Japanese Government in the following capacity: Director of Personnel Division, Second Demobilization Bureau and that as such official I had custody of the document hereto attached consisting of 163 sheets, dated 15 July 1944, and described as follows: Bound file entitled "Headquarters, No. 5 (Naval Air Materials Omitted) Outline of Meritorious Records in the Greater East Asia War, 1 December 1943 - 31 May, 1944". I further certify that the attached record and document is an official document of the Japanese Government, and that it was part of the official archives and files of the following named ministry or department (specifying also the file number or citation, if any, or any other official designation of the regular location of the document in the archives or files): Personnel Bureau, Navy Ministry, Japanese Government.

Signed at Tokyo on this14th day of October, 1947/sgd/ I. KAWAI
Signature of OfficialWitness: I. Yokoyama /sgd/Director of Personnel
Division, S.D.B.
Official CapacityStatement of Official Procurement

I, J. G. LAMBERT hereby certify that I am associated with the General Headquarters of the Supreme Commander for the Allied Powers, and that the above described document was obtained by me from the above signed official of the Japanese Government in the conduct of my official business.

Signed at Tokyo on this14th day of Oct. 1947/sgd/ J. G. Lambert
NAMEWitness: Johnson F. Munroe /sgd/Investigator, IPS
Official Capacity

72. 3841

Doc. 3146-A

秘
八

海軍大臣殿

第八潜水戦隊司令部

区
分
目

功績等級期間

等級
二

自十月一日
至五月三日

大東亞戦争定期功績概見表(自昭和十八年十月一日
至昭和十九年五月三日)
第八潜水戦隊司令官 海軍少将 市岡 壽
作戦行動戦争關係業務等
一前月ヨリ引續キ南西方面潜水部隊ニ附テ
トテ彼南基地ニ在リテ麾下潜水艦ヲ以テ印度洋方面ヨリスル
敵ノ反攻増援阻止艦船攻撃
作戦企圖ノ破碎及陸軍ニ策應
支援シ敵ノ印緬國境方面對
シ海上ヨリスル増援阻止ニ努メ印
度國內ノ敵情偵知トシメ謀者
ニ特殊工作員ヲ輸送潜入ニ

記
一前月ヨリ引續キ南西方面潜水部隊ニ附テ
トテ彼南基地ニ在リテ麾下潜水艦ヲ以テ印度洋方面ヨリスル
敵ノ反攻増援阻止艦船攻撃
作戦企圖ノ破碎及陸軍ニ策應
支援シ敵ノ印緬國境方面對
シ海上ヨリスル増援阻止ニ努メ印
度國內ノ敵情偵知トシメ謀者
ニ特殊工作員ヲ輸送潜入ニ
二四八海上護衛隊司令

七月三日進達



19.8.14

海軍大臣殿

<p>協力成功シ濠洲及亞非利加東岸ヨリ亞丁海灣アラビヤ沿岸印度並ニベンガル湾ニ至ル敵輸送路ノ偵察破壊、亦偵察機隊ト協同作戰及重要地ノ偵察及哨戒ヲ實施西方方面敵情判斷ニ寄與スル所大ナリ</p>	<p>長官ノ指揮下ニ在リシ處三月二十五日解隊トナリ伊六六、伊六五、伊六四所屬トナリ伊六二、伊六一戰ニ他八五十一潜水隊ニ編入セラレ離艦ス</p>
<p>二、麾下ノ一部(伊八、伊九、伊五、伊五〇、一六)特殊任務ヲ以テ大西洋歐洲方面ニ派遣或ハ回航任務等長期ニ涉リ連續作戰セシメ以テ日獨連絡ノ任ニ當ル</p>	<p>三、伊九、八、十、月十六日昭南出撃大海指三三號、各特別任務ヲ以テ大西洋歐洲方面ニ派遣作戰中</p>
<p>三、麾下ニ對スル整備補給並ニ訓</p>	<p>四、伊六、八、一月日昭南艦隊</p>

練ヲ促進指導シ以テ潜水艦
作戰ヲ進捗セシメ戰果發揚
ニ努メタリ

四、印度洋方面ニ於テ日獨潜水艦
協同作戰ハタメ急速ニ増派セ
ラル獨潜水艦ニ對スル作戰連
絡並ニ救濟補給等戰備協
力獨潜水艦、戰果ヲ發揚セシ
メ日獨協同作戰ヲ有利ニ指
導シ印度洋方面交通破壞
作戰遂行ニ資スル處大ナルモ
アリ

直率トナリ先遣部隊
ニ入ル
五、甲八大海指ニ五號特別
任務十一月二十日終了
歐洲ヨリ返着二月二十日
兵出撃當方面ニ作戦
中
六、本期間中
（一）甲三四特別任務ヲ以テ
彼南ニ進出、途次十月
十日マラッカ海峽ニ於テ
敵ト交戦生存者十三
名ヲ除キ總員戰死

海

軍

次、通

撃沈商船二隻（一九〇、〇〇〇）

帆船八隻（一、二〇〇）

撃破大型商船一隻

捕虜英人船長外敵船乗

員九名

ヲ遂ゲ二月五日戦隊

ヨリ除ナル

(二) 三月二日、八日、十四日、二十日、二十六日

二月四日何レモ彼南

出撃ヲハシガレ湾及

印度洋方面ヲ交通

破壊作戦ニ從事中

敵ヲ攻撃之ト交戦

三月十五日(日)二十日(月)

十五日(甲)何レモ壯烈

ナル戦死ヲ遂ゲタルヲ

ト認定ス